VOL.2 2005.5.25

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
ホームページ http://homepage3.nifty.com/kokaido/
事務局 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302 TEL/FAX 042-389-5534
宮田太郎（歴史古街道団 団長）

“道”はこんなに面白い!! 古えの浪漫を楽しみ、大いに野山や街で遊ぶ
～古街道ルネッサンスがいま各地で始まる～

歴史古街道団★活動展開中!!

道はつながっている——全国のあなたの町と私の町

昨年（2004年）の秋10月9日に誕生した「歴史古街道団」は、わかりやすく誰もが参加し易い“歴史の道”を生かした遊びとまちづくりへの活用を提案。その活動も新年度を迎えていよいよ本格始動します。

本拠地の多摩は、はるか縄文時代から豊かな人々の暮らしが展開した気候風土の穏やかな丘陵や台地です。ここに眠る信州八ヶ岳や箱根山、伊豆神津島から黒曜石を運んだ道は数万年前に始まり、太平洋沿岸に沿う海流を伝ってやって来た古代開拓者の海の道もここに続いています。

－ゆっくりのんびり歩く それが古道歩きの楽しみ－
（古代の休憩所跡？ 町田市野津田上の原にて）

飛鳥や奈良・京都といった都からの大道、坂東武者が駆け抜けた鎌倉幕府の道、東西日本の霊場や寺社を結んだ壮大な巡礼道、江戸幕府の街道と庶民の道、新選組の道や横浜へ続いた絹（生糸）の道、様々な魅力溢れる歴史古道が交錯する古街道のメッカ多摩丘陵から、その無限大の面白さと楽しさと魅力を全国へ発信していきましょう！

TOPICS ついに発見！これが未知なる道と遺跡だ!! シリーズ・1

源義経や足利尊氏が通った“鎌倉古道の本路跡”
── 3キロメートルに渡って残るその痕跡そして城跡 ──

【東京都町田市小野路～野津田】

多摩ニュータウンの南側の緑豊かな山林内には、謎の山城や関所跡、人馬の通ったことで出来た踏み跡（地下の地層が崖で見えている。国内では最大級の厚さ）が残っている!?
そして本町田へと全長３キロの古道跡は貴重な歴史遺産。この環境と遺跡を後世に残し伝えよう！

多摩丘陵がなぜ歴史古道の宝庫であるかについて、そしてどのように残っているかなど、これから団報（ニュース）のシリーズで紹介していきます。

七国山の鎌倉古道（東京都町田市）

多摩丘陵は立地から見ても鎌倉幕府と江戸幕府のそれぞれの拠点地にはさまれる位置にあり、また足柄・箱根路や甲州路で飛鳥、奈良とつながる要衝地帯です。京都まで行って室町幕府を開いた関東武士・足利尊氏は東国における幕府の地方政治機関「鎌倉府」を再び鎌倉に置いていますから、繰り返し道は使用され続けました。いかに多摩丘陵は古代以来の交通の要衝であったか、その歴史の宝庫としての姿がわかるというものです。 そしていま多摩丘陵に残る数多くの歴史遺産は自然崩壊と人工破壊の危機に直面し、緊急な保護策が必要な事態にあるのです。

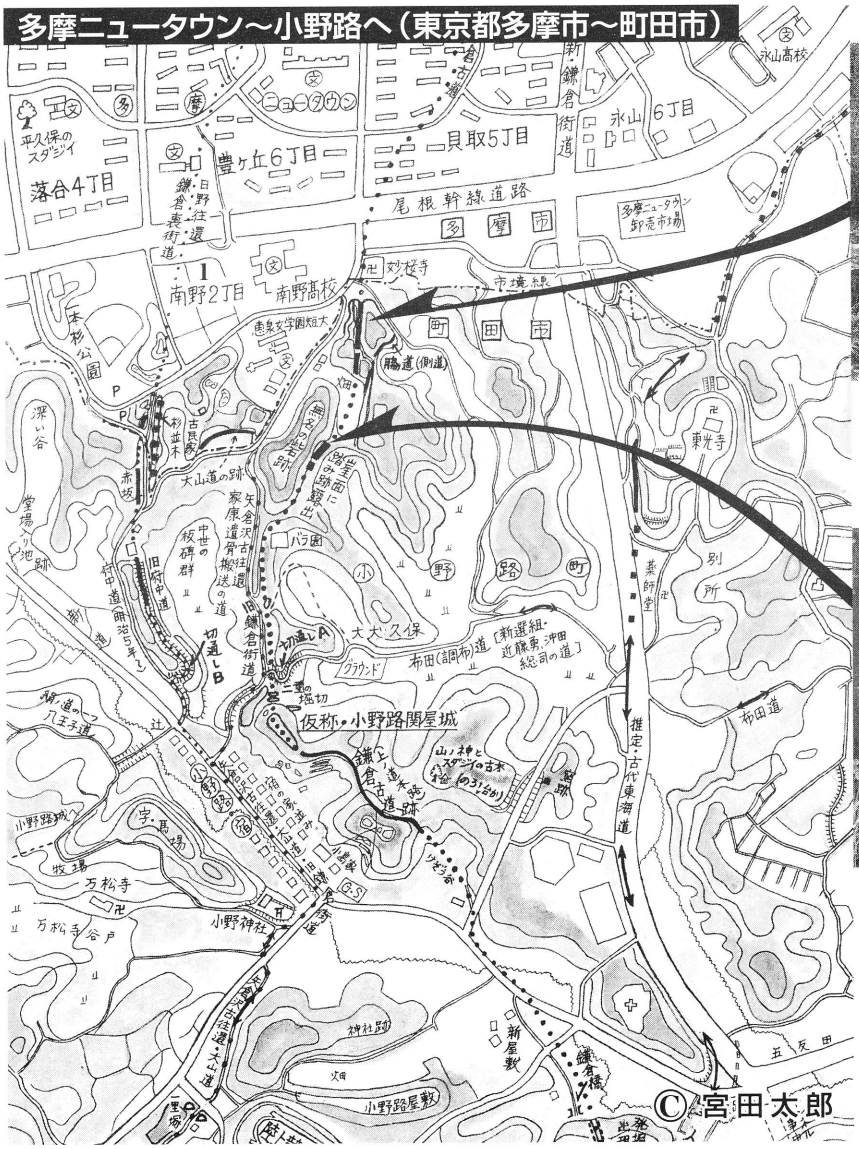
（次ページにつづく）

多摩市の多摩ニュータウン貝取団地５丁目と豊ヶ丘４丁目の間のバス通りを南に進むと妙桜寺というお寺があり、その辺りから南側の山林が町田市小野路である。駐車場脇に山林に上ってゆく山道が見えるが、これが「推定・鎌倉街道上ノ道本路」であり、鎌倉の鶴岡八幡神社の前にある流鏑馬馬場道（やぶさめばばみち）につながる鎌倉街道の最重要道路である。（※写真－1）

かつて源頼朝も義経も北条政子も往来しただろう古道がここに眠っていた。何故今まで誰も気が付かなかったのだろうか。どうやらある紀行家が隣接する別の道（一部は明治5年頃に開かれた）を鎌倉街道として紹介して以降、他の本も同じよう紹介したからであろうか。道の形は軍道堀という名で呼ばれる特徴的な末広がりのU字型を呈し、土手（塁）も壁も、また砦跡らしき痕跡も山頂付近に良好に遺存している。

その入口から300mほど南へ行くと本路は畑で大きく開拓されて消滅しているが、その先の深い崖の上に出ると、また古道は遺存していた。しかし10年程前に台風でいきなり崩れ、鎌倉街道跡は遂になくなってしまったと思われたが、「掘らなくても（発掘しなくても）断面が観察できるはず」と覗いてみたときの衝撃は忘れられない。近付くと断面に人馬の踏みならしたとみられる堅い地層の堆積がはっきりと見てとれたのである。踏まれて堅くなった層の厚さは1m以上に達し、下の方には道路基盤工事の跡や“野津田上の原四つ塚（のづたうえのはら よつづか）”の発掘で見られた鎌倉街道跡と同じ連続する小穴（ピット）まで見られた。つまりこれは古代道か鎌倉街道として建設された公道であり、戦国時代頃まで続いて使われていたことが想像されたのである。その往来は相当な頻度で行われたことを示しており後に考古学の専門家数人の方々に見て頂いたが、いずれも古道跡の可能性が高いとの判断が返ってきている。（※写真－2）

（宮田太郎）



写真－1

発見された鎌倉街道上ノ道本路（推定）の跡
（東京都多摩市貝取～町田市小野路境界付近）

写真－2

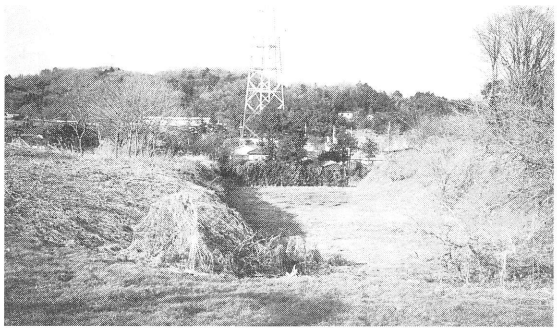
台風で崩れた崖の断面で、鎌倉～戦国時代の人馬の踏み跡？を発見。
最下層には当時の道路工事の跡、その上に何層もの硬くしまった踏み跡が重なっている。
（東京都町田市小野路）

古代ロマン

古街道の集まる奇跡の丘“野津田上の原”へ行こう！

東京都町田市の野津田(のづた)に大変な歴史のロマンを秘めた丘がある。団員のみなさんにはぜひ一度は歩いて頂きたい場所であり、その魅力的な景観や興味尽きない歴史のロマンには、きっと誰もがはまってしまうはずである。

ここは現在、野津田公園という緑豊かな総合運動公園として知られているが、その東側の緑地帯にある「上の原広場」には、たくさんの重要な歴史古道が集まっていたらしいことがわかってきた。その一つは古代大和王権が飛鳥や奈良から東国に向かって建設した国道「古代東海道」であり、この道は防人も九州に赴く際に通り、坂上田村麻呂のエミシ征討や、租庸調などの税納物も運ばれた天下の公道である。



町田市野津田町上の原の「推定古代東海道」跡。
幅20m程の人工の切通し状の谷（地図 A地点）

また鎌倉時代の軍事道路「鎌倉街道上ノ道本路や支線の鎌倉道」などもこの左右の土手を通っていたらしい。もちろん源頼朝が奥州藤原氏を攻めたときや、義経も平家を倒すための四年近い準備期間や、腰越で鎌倉入りを許されず、足止めされた頃などにこの道を歩き回っている。また、西行法師・日蓮・聖護院門跡など僧侶の旅路、戦乱の時代には足利尊氏やその一門が繰り返した府中との往来、また戦国時代の上杉謙信の大軍勢が鎌倉から引き上げるときなど、その例をあげたら切りがない大幹線道路だ。

台地を切り通す古街道群と野津田の丘（東京都町田市）

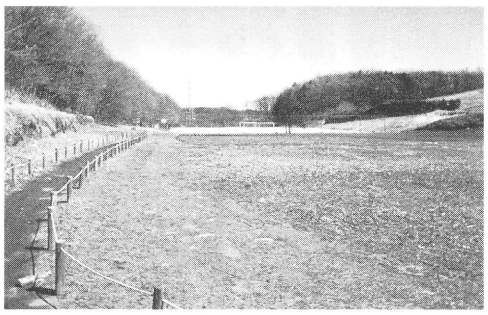
地名に「万座楽(ばんざらく)＝宮廷雅楽の万歳楽(ばんざいらく)か？」「くぐつ沢」や「鎌倉橋」があるから古代宮廷人や遊行の芸能集団もここを通ったり一時的に住んだかもしれない—そんなことを想像するだけでも面白い場所である。

また江戸時代には徳川家康の遺骨を静岡県の久能山から日光東照宮に移した千人行列の道、大山道、矢倉沢古往還(足柄路)などの古街道もすぐ近くを並行して通り、この丘全体にそれらが束のように集まっていることになる。

かつて現地の単独踏査(1987年　宮田)の成果に続き町田市教育委員会が行った発掘調査では、幅12メートルもの大きな道路跡も出現している(上の原遺跡)。またその脇に長細い窪地があるが、ここを利用して古代東海道は建設されたのではないかとのロマンについては2000年の多摩歴史街道遺跡研究会(会長・峰岸純夫教授、事務局長・宮田太郎)の試掘やそれに続く町田市教育委員会、東京都教育委員会の試掘調査で資料が集まり始めている。

これらの古道が集まっていたとしたら長さは約800メートルでとても長い。ちなみに国分寺市の東山道武蔵路は全長370メートルが発掘されて東京都の指定史跡になっている。この“上の原”に行った人は皆、同じように「なんだかやけに懐かしい」とか「ここはただの場所じゃない」とか感じるという。

また、付近での武士の館群や砦、狼煙(のろし)や烽火(ほうか・とぶひ)台、朝廷への献納馬や中世の軍用馬の飼育場＝牧場、古戦場などの存在が考えられ、現地を歩いての伝説探しや遺跡探しも面白い。未だ解明されていない関東に於ける鎌倉時代や室町時代の遺跡が大量に残されている可能性は極めて高い。



上の原の長方形のくぼ地 全長800m。
この中に古代東海道跡や休憩所跡が
埋もれているか？（地図 B地点）

まさに、ここは『古街道が集まる奇跡の丘』といえる場所。緊急な保護も必要であるがこれからも歴史古街道団では、この丘の徹底的な実地踏査を行い、将来は野津田公園全体を「歴史公園」にしていく提案を町田市に働きかけ、共に進めたいと考えている。団員の皆様、そして多くの方々がその素晴らしい環境と豊かなロマンを一日も早く感じ楽しんで頂きたいと願っている。　（宮田太郎）

発団式報告

『歴史古道でまちおこしフォーラム2004』

― 2004年10月9日(土)　多摩市永山公民館ベルブホールにて ―

2004年10月9日(土)東京都多摩市永山公民館ベルブホールにおいて『歴史古道でまちおこしフォーラム2004』を開催しました。当日は、最大級の台風22号の直撃を受けましたが、60名を越す参加者のもと、河村副団長の司会進行により、第１部歴史古街道団発団式では、宮田団長の挨拶、案内に続いて、菊田運営本部長による発足宣言が行なわれ、さらに顧問の方々よりの祝辞を戴いて、晴れて「歴史古街道団」が正式発足しました。

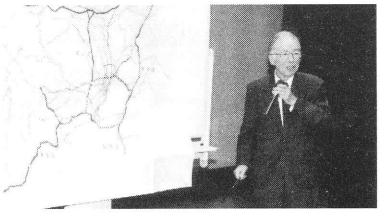
いよいよ活動が始まる記念すべきこの日を迎えて喜びのスタッフ一同

引き続き第２部講演会では、武部健一先生による記念講演『道の歴史を考える』、宮田団長による『道の歴史を考える－“多摩古道”と“よこやまの道”から始まる歴史古道まちづくりネットワーク』の２件の講演があり、両氏から道に寄せる熱い思いを語っていただきました。今回は紙面の都合上、武部先生の講演について内容を要約してお伝えいたします。詳しい内容については担当までお問い合わせください。　（TEL：0426-76-3724 中丸）

記念講演〔要旨概略〕

道の歴史を考える ―関東そして多摩―

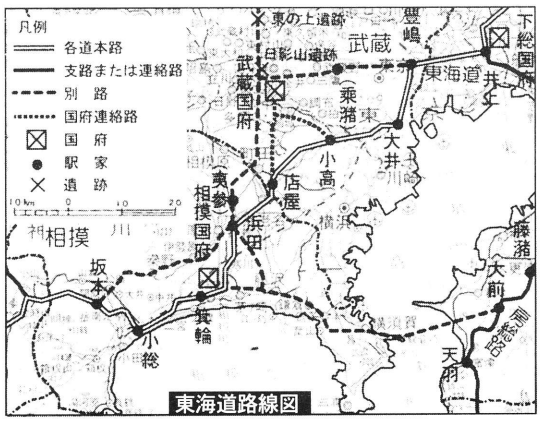
《講師》道路文化研究所理事長　武部健一 先生


ご講演中の武部健一先生

初めに黎明期の道路、これは縄文から弥生、古墳時代、そういう時にも道があったということですね。これは稀に、発掘の中で出てくる。この付近では道という形ではあまり例を伺っていませんが「古墳」はありますね。これは古代の道より以前のことと考えられます。

縄文から弥生にかけての歴史の中にも、すでに「道」があったわけですが、ただ、道の歴史ということになると政治と関わっていますから政治体制が変われば道の体制も変わるということになります。大体、道の区切りと歴史の区切りはよく似ていますので歴史の区切りに従って道の歴史も変わってくると考えてよいと思います。

二番目に古代の道というとき、初めて日本で意図的、計画的に道路を造るという時代を迎えたのが、七道駅路を造ったときでして、奈良時代よりもう少し早い時期「近江朝」の頃のことです。大化改新があって、一時的に近江へ天智天皇が都を移され、その後に藤原京、奈良の平城京へと移っていきました。新しい律令国家が出来たとき、誰が造ったかはよく分かりませんが全国への道をきちんと造り出したのです。そのことは、だんだん後になって“この道をどうしろ”などと出てくるから、それ以前から道があったということが分かるというわけです。天智天皇の頃に造られ始め、天武・大宝(奈良)時代に最初の基本が出来、その後の奈良朝の八世紀に発展していったと考えてよいかと思います。中世になりますと、この時代は日本の全体から見て幹線道路という状態ではひとつの時代を画していないと思います。



著書「古代の道」より

ただ、ひとつだけ鎌倉の道というのがありますが、全国的に見ればこれもある意味ではローカルなことで、組織的な道があったという発表は残っていませんから、どうも幹線道路の歴史を書こうとすると中世というのは入らないのではないかと思います。

今から四百年前、江戸幕府が出来ますと、これまた、新しく五街道というものを中心に新しい体制が作られ、それが今度は明治になると新しい政府の手で五街道のまま制度化されました。これが我が国の街道の歴史ということになります。**(以上、講演内容概略の一部より)**

高速道路の計画というお仕事の中で、高速道路予定ルートが古代の道路に似ているということに気付かれた武部先生は、それに沿って国分寺があることを発見し、「国分寺のあるところは古代の七道が通っていた」ことに関心をもたれてから古道研究に入られたとのことです。「現在の道路は、自動車優先の道ばかりで、なかなか人が歩くための道というものがない。単に必要の為に歩くのではなくて人間としての生きるための道というか、余裕のある道が必要です。そういう意味でいうと、このたび“よこやまの道”を多摩で整備されたことは、まさにそういうことであったかと思います。このような道がもっと積極的に出来れば良いと願っています。今後、この古街道団が発展されることを私も是非応援したい」と結ばれました。唯一、高速道路と古代の道路を一目で鳥瞰出来る目を持つ先生の次なる道づくりは、「人が歩ける道である」というお話に、目から鱗が落ちる思いがいたしました。（調査研究部　中丸）

宮田団長の講演風景

武部先生の著書
完全踏査 古代の道
－畿内・東海道・東山道・北陸道－

全国で次々に発見されている古代の道路跡を歩いて検証した“道”の研究の第一人者の著書
古道ファン待望の一冊
吉川弘文館　定価2,730円(税込)

稲荷塚古墳及び八角形古墳について

東京都多摩市にある稲荷塚古墳は7世紀前半の都内最大古墳で、凝灰岩の石室を持つ。平成元年(1989)6月、私たちが探索した頃は、屋根掛けで石室は丸出しのままだった。その後、平成3年(1991)4月、古墳横の保育園の建替え工事で発掘し、八角形古墳であることが判明した。八角形古墳は天智天皇陵他関西で4例で、天皇陵だけに使われる格式の高い古墳である。稲荷塚古墳は謎に満ちた古墳である。被葬者の手掛かりが何もないし、何故この東日本に造られたのか？当時、発掘に携わった国学院大助教授吉田恵二先生の推測では、当時このあたりの豪族か、或いは渡来人の古墳とも考えられると言っている。

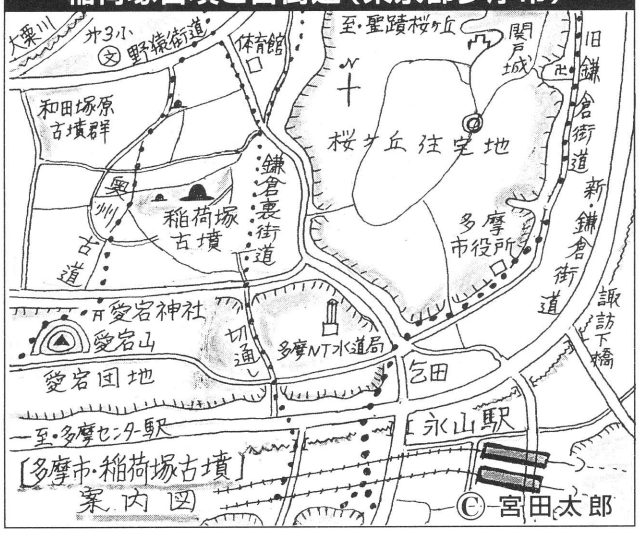
では関西の八角形陵及び古墳を列挙してみよう。

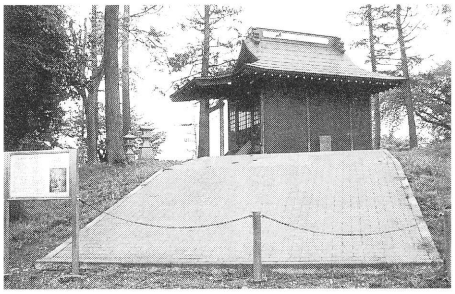
①奈良明日香村の野口王墓墳 ②同中尾山古墳 ③奈良桜井市押坂段ノ塚古墳 ④京都山科御廟野古墳 ⑤同天智天皇山科陵 ⑥多摩百草の稲荷塚古墳。その後⑦平成5年(1993)10月群馬県吉岡町で三津屋古墳が発見され、続いて、⑧平成6年(1994)9月山梨県八代郡で経塚古墳が発見され、都合全国で8例になった。(9例目と書かれている文献もあるので、私が落としているのかもしれない)

古墳時代全国で造られた数は5万基と有る中に、八角形古墳がいかに少ないか判って頂けたことと思う。その数少ない1基が多摩に有ることが、いかに重要な地点であったことかが伺える。『恋路ケ原』のロマンと共に多くのことを考えさせられる。

(調査研究部 奥村)

稲荷塚古墳と古街道(東京都多摩市)





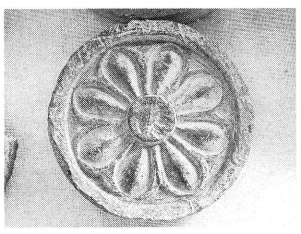
稲荷塚古墳と恋路稲荷(東京都多摩市)

ウォーキング報告

2005年1月8日 「鎌倉街道を探検しよう！ 国分寺恋ヶ窪編」(東京都国分寺市)

「寒い！」地元だと思って甘くみすぎていた。新年早々の1月の国分寺。慌てて駅でホカロンを購入。凍てつく寒さのなか、空気は一層澄みわたり、空は眩しいほど青かった。

午前は国分寺の歴史を生み出した湧水地帯を散策。姿見の池は澄んだ水を湛えている。「東京の名湧水57選」にも入るこの池は、近藤勇の生家近くまで流れる野川の最上流部の水源。ここで畠山重忠と夙妻太夫の悲恋物語「一葉松」の伝説を聞く。重忠が義経に従軍し平家討伐に向かった時代の話だ。その後訪ねた東福寺にはその伝説を記した傾城墓碑と3代目の一葉松がある。それから、恋ヶ窪用水を散策し、ヤタガラスが見守る熊野神社へ。昼食後に向かった東山道武蔵路の12m幅の古代道路跡には奈良東大寺にも通じるスケールの大きさを感じた。その道を闊歩する人々や牛車の光景を想像しながら、国分寺薬師堂へ。お堂の裏ではいろんな表情をした石仏群に出会った。ここには何度か来ていたのに新発見だった。そして、いよいよ武蔵国分寺跡へ。今は何もない単なる原っぱだ。でも、お話を聞き、配置図を片手に佇めば、往時の伽藍や講堂、七重塔も目に浮かぶ。当時から現在まで続く東大寺のお水取りのように、ここでも僧達が平和や豊穣を祈って修行をしていたのだろうか…春になったら、またここへ来て講堂跡で昼寝でもしながら奈良時代の国分寺を夢想してみたい。最後は国分尼寺跡から鎌倉街道へ。この辺りでは国分尼寺の瓦がみつかる。その網目模様の瓦の欠片を手にしたとき、多摩の遠い昔と今がつながっていることを実感したのだった。



正直に言えば、冬のウォーキング未経験で無防備だった私には、この日はほんとに寒さが身に堪え、実は早く帰りたいとさえ思った。でも、今になってこうして文章にまとめ、追体験していると、改めてとても貴重で奥の深いウォーキングだったことを実感する。とくに高校生の頃に三鷹から国分寺に引っ越した私は、地元であったのに実は今まで何も知らず、そのありがたみさえ認識していなかったので、あの日の古街道団のウォーキングは本当に有意義だった。自分の住んでいる土地では、昔も人々が自然を愛で喜怒哀楽しながら生きていた。こんな実感を多摩に住む、より多くの人に味わってもらえたら幸いである。

(藤波祐子)

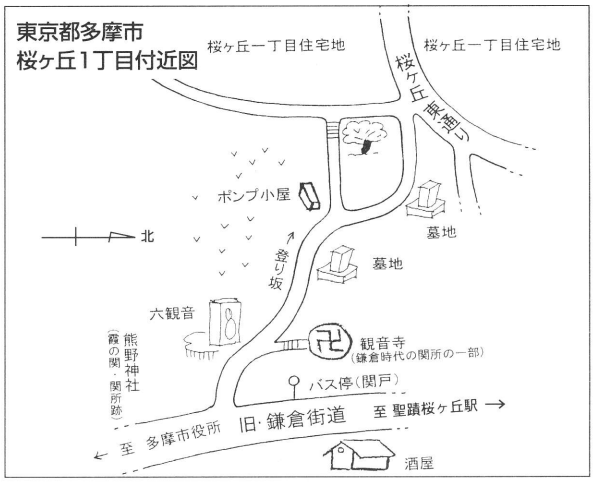
コラム 多摩の道・雑感

「道は交流の機能を持つ」という宮田団長のことばに私の錆付かんとしている脳はフルに反応しはじめた。温故知新。では、現代の道はどうなのか。なるほど、そういうことから私たちの道を見てみると、かなり面白いと思う。

桜ヶ丘一丁目から観音寺の前を通って、鎌倉街道へ抜ける坂道がある。現在は道幅も拡幅され、舗装された立派な「道路」となっているが、私が当地へ移り住んできた昭和42年頃は、軽自動車一台がかろうじて通れる程の「農道」であった。

桜ヶ丘一丁目あたりは、住宅地になる前は段々畑が拡がっていたようで、それまで農作業に通った“あぜ道”が当時は鎌倉街道から細々と伸びていた。夏ともなれば生い茂る木々が月の光を遮り、漆黒の闇に包まれる夜道は観音寺の墓地の前ということもあり別世界への入り口がそこにあるような気味悪さがあった。その道の整備はといえば、鎌倉街道から入ってすぐの観音寺前で舗装は終わり、逆に桜ヶ丘から下っていくと住宅造成時に造られたポンプ場の前で舗装道は途切れていた。つまり、それぞれの地域の人々が必要とする場所までしか「道路」として成立していなかったわけである。かつて鎌倉幕府の関所を要した鎌倉街道は、現在においても各所を結ぶ便利な「道路」であり、そこへと通じる観音寺の前の「道」も時間の流れとともに桜ヶ丘住民にとっては重要な「道路」となっていった。

六観音



桜ヶ丘は多摩の地元にとって、ある意味で異質な存在だったと思えるが関戸へと続く「農道」が「道路」へと変化していくに連れて地域間の交流も拡がりつつあると感じている。観音寺の前の「道路」は地域の交流に重要な役回りを演じたのかもしれない。　（大杉公志）

コラム 探求の目

昔、人々は太陽や星を頼りに旅をしました。現代の旅人は人工衛星を頼りにしています。カーナビでおなじみのＧＰＳという衛星です。もちろん、これは肉眼では見えず、電波の目で見ています。

今、宇宙には沢山の人工衛星が飛んでいますが、肉眼で見るのは困難です。しかし、条件さえよければ大変綺麗に(金星よりも明るく)見えるものもあります。日本も参加して作っている国際宇宙ステーション(ISS)です。

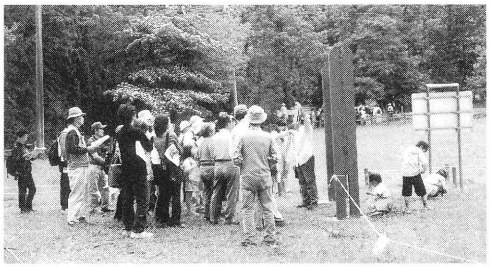
昨年夏、信州の信玄棒道の探索会で白樺湖に泊まったとき、ペンション近くの広場で見たISSの輝きは感激でした。ISSの見える日時、方向については宇宙航空研究開発機構(JAXA)のホームページの中で、“ISSを肉眼で見よう”で10日先までの情報が分かります。〔ホームページアドレス　http://kibo.tksc.jaxa.jp/〕　（三好一雄）

2005年5月7日(土)、8日(日) ゴールデンウィークイベント報告 ～古街道の集まる奇跡の丘、野津田～

歴史古道ウォーキング大会 IN 野津田・小野路

2005年5月7日(土)、8日(日)の2日間、3ページにも紹介した“古街道の集まる丘”東京都町田市野津田公園において、歴史古街道団初めてのビッグイベント「春の歴史古道ウォーキング大会IN野津田・小野路」を実施。

両日とも散策日和に恵まれたことや、8日(日)の読売新聞朝刊多摩版に掲載された記事を見た人など、多数の方々にご参加いただき盛会でした。



コース ① 古代ヤマト朝廷建設の“古代東海道”と鎌倉街道発掘物語コース
② 徳川家康ゆかりの小野路一里塚と古代馬の牧場コース

各コースとも約2時間のウォーキングでは、宮田団長や団員有志がガイドを務め、新緑やミズキ・ツツジの花に囲まれた広大な野津田公園や、その中に人知れず眠る古道跡など、新たな発見とともに大いに楽しみました。

《歴史古街道団の主な活動》

1、歴史資源（古道、遺跡、史跡、伝承）をまちづくりに活かすための啓蒙活動（講演、学習、研究、セミナー、フォーラム、探索ウォーキングの開催ほか）。 よって生涯学習、総合学習、健康推進事業にも寄与する。

2、多摩丘陵周辺に奇跡的に残された古道群「多摩古道」と「多摩よこやまの道」（歴史自然景観遊歩道）の保全と活用、研究、並びに全国各地の古道の実地踏査・研究活動。

3、関東各地、全国へ向けて「歴史古道でつなぐ地域交流ネットワーク」の輪を広げ、歴史古道による地域興し、地域発展のシステム構築を目指す。

歴史古街道団これからの予定

歴史古街道団 05年度4月～9月活動予定

◆以下臨時増刊号でお知らせ済みのもので終了したものは記録も兼ねて簡略に記しました。

■2005年4月10日（日） 多摩の古街道探検ウォークシリーズ （終了）
テーマ=『奥州古街道と小山田の里PART1』〔唐木田～小山田大泉寺の奥州廃道編〕

■2005年4月21日（木） 多摩の古街道探検ウォークシリーズ （終了）
テーマ=『奥州古街道と小山田の里PART2』〔町田街道の桜美林～小山田桜台の奥州廃道編〕

■2005年4月26日（火）＆ 30日(土) ＆ 5月6日（金）（全3回）（終了）
テーマ=「5月ゴールデンウィークイベント・事前ガイド養成講座IN野津田公園」

■2005年5月7日(土)、8日(日) ゴールデンウィークイベント （終了）
『春の歴史古道ウォーキング大会IN野津田・小野路』
～古街道の集まる奇跡の丘"野津田上の原"を歩こう ！ ～
内 容……団員と一般対象。2時間程度のコースで当団のガイドが案内。
素晴らしい春の野津田の丘を満喫します。
ガイドコース …1、古代東海道と鎌倉街道発掘物語コース
2、徳川家康ゆかりの小野路一里塚と古代馬の牧場コース
その他……参加費無料。資料やマップをカンパにて頒布。小雨決行大雨中止。

■2005年5月24～26日 『熊野三山と中辺路&伊勢路ツアー』他団体合同（終了）

これから実施

■2005年5月29日(日) 歴史古街道団・総会
＊団員の皆様はぜひご出席下さい。

【会 場】永山公民館ベルブ視聴覚室 TEL 042-337-6661
（小田急・京王「永山駅」改札出て左、マクドナルド右手階段上がり 屋上の奥にあるガラス張りの公民館内）
【時 間】午後2時から4時
【内 容】①『総会』
②『郷土史と古街道研究発表』
1、やさしい金属の話(奥村辰三)
2、栃木県の古道を探る(小菅勲)
3、由木大塚清鏡寺の廻り観音について(中丸三次)
【その他】ウォーキング資料コーナー、 情報交換コーナーあります。
終了後希望者で懇親会（17:00～18:30）を予定

■2005年6月11日(土) 多摩の古街道探検ウォークシリーズ
テーマ=『徳川家康の御成道と大山街道』
（多摩市貝取～町田市図師） ご案内＝宮田団長

【集 合】小田急永山駅小田急改札前 午前9時半
【コース】貝取の板碑群～鎌倉古道～貝取こぶし館～大山街道（家康の御尊櫃御成道）～一本杉公園（昼食）～小野路宿～小野神社～一里塚～並木 路線バスで淵野辺行、または大蔵経由多摩センター・永山駅行
【その他】小雨決行 大雨中止
【参加費】※下欄の参加要項参照

多摩の古街道探検ウォークシリーズ の 共通参加要項

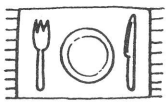
□ 参加資料代： 団員 700円（ご夫婦の場合2名分1,000円）
一般1,000円（ご夫婦の場合2名分1,500円）
中学生以下無料

□ 申込み不要（当日集合場所にて受付）

□ 小雨決行，昼食・雨具は必ずご持参下さい

■ 2005年6月17日(金)

追加決定!『ランチ交流会 IN レストラン・フレスコ』



日頃、活動にあまり出られない方、たくさん参加している方、とにかく話したい方、情報を得たい方、みんな大集合!
普段なかなか名前のわからないあの人とも交流しましょう。

【会 場】レストラン・スタジオフレスコ 2F パーティールーム
多摩市諏訪6−1(多摩市陸上競技場近く。P有り。多摩よこやまの道スタート地点脇)
TEL 042-337-6811

【時 間】午前11時45分〜午後1時45分
*食後には隣の多摩市最高地点散歩(約1時間)もどうぞ。眺望抜群。横浜も見えます。運がよければ縄文土器も拾えます。(散歩は自由参加)

【参加申込み】
定員40名位までOK(先着順)
最終締め切り6月11日の夕方。団長・宮田もしくは菊田(本部長)、三好(事務局長)、小島(勘定方)まで直接お申し込みください。

【参加費】2,000円(ランチ、ドリンクバー形式)

■ 2005年6月26日(日) 多摩の古街道探検ウォークシリーズ

テーマ=『鮎街道と柚木の古代役所跡の謎』
(多摩境〜南大沢都立大の尾根〜柚木)
ご案内=宮田団長

【集 合】京王堀の内駅改札前に午前9時半

【コース】堀の内駅〜南八幡〜松木氏墓石塔〜NO.107遺跡(古代役所跡)〜都立大の尾根〜南大沢駅前で自由昼食〜鮎街道〜小山境の尾根〜多摩境駅

【その他】小雨決行、大雨中止

【参加費】※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年7月10日(日) 多摩の古街道探検ウォークシリーズ

テーマ=『絹の道と大塚山の謎』
(京王片倉〜鑓水〜多摩境) ご案内=宮田団長

【集 合】JR片倉駅改札前に午前9時半集合
*JRの駅ですので、京王の駅とお間違えなきよう

【コース】絹の道痕跡〜慈眼寺〜片倉台〜大塚山〜絹の道〜資料館見学と弁当昼食〜小泉屋敷〜鑓水公園〜小山が丘4丁目浜見場跡〜多摩境駅

【その他】小雨決行
大雨中止

【参加費】※前ページ下欄の参加要項参照

■ 2005年7月18日(月・祝)

城山地域史研究会 代表 山口清先生講演会&団長研究報告

＊ご注意＝3月初頭の臨時増刊号でお知らせした7月31日の予定を18日に変更しました。

山口先生講演テーマ=『津久井城をめぐる道と史蹟』

【内 容】津久井城は、甲州と多摩を結ぶ重要な古道の入口を示す山城だった?! 一武田信玄の大軍が通過していった津久井城(神奈川県津久井郡)の様々な歴史を永年研究しリードされてきた、城山町教育長でもある山口先生にお話して頂きます。

【会 場】永山公民館ベルブホール(多摩市永山、198人収容)
(小田急・京王「永山駅」改札出て左、マクドナルド 右手階段を上がり 屋上の奥にあるガラス張りの公民館)

【時 間】午後2時〜3時30分 山口先生講演
3時45分〜4時30分 宮田団長研究報告
『箱根の平安鎌倉古道と多摩古道〜その共通点に迫る』

【その他】参加費(資料代など)700円 ご夫婦1,000円
事前申し込みは不要

■ 2005年7月30日(土)

朝の健康ハイク歴史と自然の道散歩会

テーマ=『朝の高尾山びわ滝散策路・涼風ハイク』
(京王線高尾山口駅〜6号路〜びわ滝〜高尾山口駅)
ご案内=宮田団長

*涼しい午前中だけのハイキング。山腹のお滝場と川沿いの大自然満喫コースなのでとても楽な行程です。ご家族ご友人とお気軽にご参加下さい。

【集 合】京王線聖蹟桜ヶ丘7時29分発、急行「高尾山口駅行」(到着は7時50分)にお乗り下さい(後ろから2両目付近に集まってます)または高尾山口改札前に7時55分集合

【コース】高尾山口駅〜ケーブル清滝駅〜6号自然散策路〜岩屋大師〜びわ滝〜高尾山口駅(解散正午)

【その他】小雨決行 大雨中止。雨具持参。

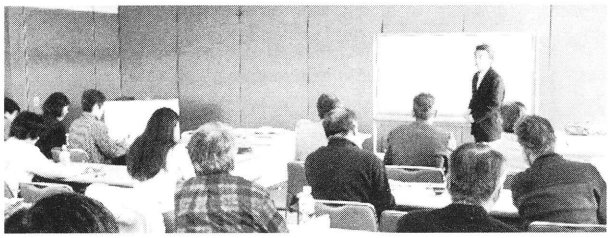
【参加費】会員700円(夫婦2人で1,000円)
事前申込不要
午後は自由に散策も出来ます。
朝の山の空気を楽しみましょう。

■2005年8月7日(日)

講演学習会『古街道学のすすめ〜だから古道研究は面白い』
講師=宮田団長

【内 容】古街道団団員必聴の講座。基本中の基本がわかる内容。古道とは何か〜どのようにしてそれを発見し、研究を深め、まだ楽しんでいくか〜など、数々の体験談を基にお話します。

【会 場】多摩市永山のグリナードホール（永山駅前グリナード4階。宝くじ売場横エレベーターで4Fへ）
【時 間】午後1時半～4時
【その他】参加費（資料代）700円　事前申し込み不要



■ 2005年8月30日(火)　日帰りバスツアー

『金太郎の故郷を歩く～夕日の滝と洒水の滝めぐりの旅』
（神奈川県足柄町・山北）

【集 合】小田急線永山駅改札前に午前7時集合　または
JR横浜線「成瀬駅」改札前に午前8時
【コース】永山駅～成瀬駅～東名高速・横浜町田IC～大井松田IC～国道246～岸八幡と般若院（河村氏菩提寺）～昼食（飲食店）～洒水の滝～足柄地蔵堂～金太郎の里～足柄峠（足柄城）～笛吹岩～東名高速～横浜町田IC～成瀬駅（午後5時30分着予定）
【その他】参加費5,000円。定員28名（先着順）申し込み制
（FAXまたは電話にて宮田宛8月15日締め切り）
昼食代個人負担（すし店を予定1,500～1,800円程度）

■ 2005年9月19日(月・祝)

学習講演会『口ずさみたくなる万葉秀歌とよこやまの道』

【内 容】秋から始まる多摩よこやまの道の“防人の道ロマン”シリーズ第1回目は歴古団の顧問で埼玉大学特任教授の今野先生に、武蔵国周辺の万葉歌と古道をテーマにお話していただきます。
奮ってご参加ください。

【会 場】未定。追ってご連絡いたします。
【時 間】午後1時30分～4時
【その他】参加費（資料代）700円　事前申し込み不要

2005年夏・協力団体のスケジュール

鎌倉古道さとびとの会

“すべての文化と遺跡は道によって誕生した”
“道を解けばその地の真実の歴史が見えてくる”

月1回の「歴史ウォーキング」は宮田太郎講師のロマン溢れる明快な解説を聞きながら和気藹々、楽しく歩いています。昨年11月に歩いた「向ノ岡と連光寺の大展望と古街道を歩く」のコースは気軽に歩けるハイキングコースとしてもお奨めです。聖蹟桜ヶ丘駅から旧鎌倉街道→大栗橋→明治天皇ゆかりの桜馬場道→夕日の丘公園→聖蹟記念館→桜が丘公園→船ケ台の白山神社→天王の森→よこやま道入口（フレスコ前）のコース。展望がすばらしく、夕日の丘公園からは丹沢山系・秩父連山・銀色に輝く西武ドームの屋根まで見渡せ、若葉台上の公園からは新宿の高層ビルや六本木ヒルズ・横浜の“みなとみらい”やベイブリッジが見えます。多摩の尾根道は気持ちがいい！一度歩いてみませんか！

4月から9月の予定をお知らせします。参加の申し込みは不要です。
当日、集合場所へお越しください。お待ちしています。
☆日程等の詳細は「たま広報」に掲載予定です。

【活動予定】

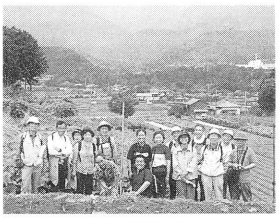
4月12日(火)　小野路城と結道（ゆいどう）の里（終了）
5月12日(木)　鶴川大蔵の代官屋敷と関山のかまくら道（終了）
6月 9 日(木)　八国山将軍塚と多摩連光寺の古代ライン
7月12日(火)　府中芝間のかまくら道と郷土の森博物館
8月 2 日(火)　日帰りバス旅行
「西湖で発見の巨大カヌーと神秘の洞窟&信玄の石塁」
9月28日(火)　日野東光寺の里の七塚古墳と日野ふるさと博物館

「鎌倉古道さとびとの会」 代　表：大杉公志
連絡先：042-376-1122（遠藤）

歴史街道探検隊

【活動予定】

6月 7 日(火)＝『茅ヶ崎の古代郡役所遺跡と古道を探る』
〔ウォーキング〕
6月25日(土)＝『大戸観音と修験者の甲州鎌倉道』
〔ウォーキング〕　（町田市相原）
7月 2 日(土)＝『鎌倉城の大調査会　PART1』
〔ウォーキング〕　（鎌倉）
7月22日(金)＝『富士吉田の徐福伝説を探る』
〔日帰りバス旅行〕（山中湖・若光研と合同）
8月 7 日(日)＝『古街道学のすすめ～だから古道研究は面白い』
〔講演学習会〕　（古街道団と合同）
8月24日(水)＝『地ビールの夕べ』
〔納涼親睦会〕（八王子大塚多摩地ビール）
9月 6 日(火)＝『王子・飛鳥山の歴史ロマンと古代役所跡』
〔ウォーキング〕



【問合わせ】
TEL/FAX 042-389-5534
《宮田太郎》

渡来文化交流団・高麗若光研究会

【活動予定】

6月26日(日)
高麗神社・主催雅楽師 芝祐靖氏
講演「渡来人の里」参加
7月22日(金)
『富士吉田の徐福伝説を探る』
〔日帰りバス旅行〕
（山中湖・探検隊と合同）

【問合わせ】TEL/FAX 042-339-5055
《佐久間 かおり》

2005活動方針 今年度、古街道団は、まず地に足をつけ、活動の土台を作ります

1．まずは足元を知る—土台となる拠点（地域）の歴史的・文化的価値を理解し、新しい時代に生きる私たち自らが“古えの道”の魅力と無限大の活用価値を知り、大いにそこで遊び、学んでゆく方法を模索し実践する。

2. 当団の運営上の三つの活動理念・方針の推進

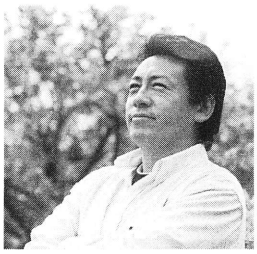
（①古道の保全・活用・啓蒙　②地域交流　③調査・研究）を継続推進し、重点活動として会員（団員）各位及び一般の方々が、全国各地の古道とそれを取り巻く素晴らしき歴史・文化的環境に存分に親しむことが出来るよう、その参加の機会づくりと支援のシステム作りを実践します。

これらは私たちのホームグランド“多摩丘陵”の、古道と関連する様々な遺跡群を実際に歩いて確かめることから始まり、その延長として「古街道が全国各地にたくさんあること」「古街道には無限大の魅力と不思議なパワーがある」ことを実感することにつながってゆくはずです。階段を一歩一歩確実に上って見晴らしの良い展望台に立った時のように、これからの活動をさらに意義あるものにしてくれることでしょう。

さらにバランスよく取り入れられた全国各地の歴史古道の探索や旅も同時に開催します。不思議とつながっている縁の深さが見えてくることでしょう。

また人はそれぞれ年齢も体力も違い、誰でも健康上の悩みの一つや二つがあるもの。体力やその日のコンディションに合わせてどなたでも気軽に楽しく参加できる方法もこれから引き続き模索し取り入れてゆきたいと思います。

皆様の益々のご参加を心よりお待ちしております。



歴史古街道団・団長　宮 田 太 郎

本の紹介　鎌倉街道伝説　宮田太郎 著

定価1200円（税込）

武蔵国府（現在の府中）を通る鎌倉街道と奥州古街道。

そこには、多摩丘陵を中心とした歴史の道の壮大なロマンがある。

源頼朝が源義経が、そして弁慶が、縦横に駆け抜けたであろう中世の鎌倉街道の全貌に迫る著者会心の書。

歴史街道ファン必見の案内書。

事務局からのお知らせ

歴史古街道団が発足して半年が経過しました。「まちづくりに生かすための活動」というにはまだ未熟ですが、皆様のご協力により会員数は着実に増え、ウォーキングなどの諸活動も活発に行なうことができました。これからはいよいよ本格的な活動期に入りますので、一層のご支援、積極的なご参加をお願い致します。

今後の活動予定は、現在確定している範囲で本号でお知らせしています。会場の都合等で未確定な部分もあり、また、次号発行（9月を予定）までに変更、追加があった場合などは前回と同様臨時増刊号でお知らせする予定です。ホームページでもその都度お知らせしていますのでご覧下さい。

なお、本会は皆様からの会費を主な財源として運営しています。先日、会報臨時増刊号とともに振込用紙をお送りしています。2005年度の会費振込みがまだの方は6月中に振り込んでいただきたくお願い致します。

＝ 移転のお知らせ ＝

事務局は4/20から下記住所に移転致しました。移転に伴い電話番号及びFAX番号も変更になりましたのでお間違いのないようにご注意ください。

歴史古街道団 事務局

〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302
TEL／FAX 042-389-5534（宮田太郎）
ホームページ http：//homepage3.nifty.com/kokaido/

《入団のご案内》

団員には次の種類があります。

1. 個人団員（個人）
2. 賛助団員（団体、法人、個人）

上記の個人の年会費は3,000円です
（各年4月1日から翌年3月31日までの分として）
団員には団報が年3回（号）送られます。また、賛助団員は10口以上で入団登録となり、優先的に提携事業のお手伝いをさせて頂きます。
『研究会誌（誌名未定）』が発行された際には、新たに研究団員(年会費+2.000円)と会誌購読団員(購読のみ・2.500円)も出来る予定です。

〔お申し込み方法〕

指定の郵便振替用紙の申し込み欄に必要事項をご記入の上、年会費(3.000円)をお振込みください。また、ご夫婦・ご家族で入団の場合は、家族会員として1口分でOKです。
例 :家族会員がご夫婦の場合は2人で会費3.000円です。
（団報はご家庭に1通お届けします）

※入団に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。
TEL／FAX：**042-337-4291**（小島）

歴史古街道団

団　　長　宮 田 太 郎
副 団 長　河 村 重 雄
運営本部長　菊 田 正 俊
事務局長　三 好 一 雄
編 集 部　遠 藤 邦 江